

海外安全対策情報（2015年10月～12月）

在サンクトペテルブルク日本国総領事館

1 社会・治安情勢

10月のエジプト・シナイ半島における当地行きロシア機爆破事件、11月のパリ同時多発テロ事件を受け、当地においても治安機関によるテロ対策や警戒活動が目に見えて強化されています。

サンクトペテルブルク市及びレニングラード州の社会・治安情勢は、ロシア国内全体から見れば比較的安定していますが、ウクライナ問題の経済制裁に加え、11月のロシア軍機撃墜に端を発するトルコへの経済制裁、ルーブル安、原油安やインフレ進行等の経済的要因が市民生活にも影響し、各種抗議行動や民族主義団体等による集会・デモが行われ、治安当局による参加者の拘束も時折報じられています。

また、ナショナリズムの高揚を背景に、異民族排斥主義的な風潮も一部に見られます。犯罪の対象は、主に中央アジアや北コーカサス等の出身者ですが、邦人の皆様も引き続き警戒が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 一般犯罪情勢

観光シーズンを過ぎても、外国人観光客を狙ったスリ・置引き・強盗等の被害が、公共交通機関内、有名観光地やネフスキー大通り等で発生し、邦人も被害に遭っています。特に最近、路上歩行時、公共交通機関への乗車及び降車時、ショッピングモールや各種商業施設からの出入時等に、複数人で取り囲み身動を封じて貴重品類を強奪する手口の強盗の被害に邦人が遭う事例もあることから注意が必要です。

被害に共通する注意点として、犯人は、貴重品類の出し入れ時に収納場所を確認したり、明らかに貴重品がある場所に狙いを定めて、集団で身動きを封じたり、隙を窺うか注意を逸らせて犯行に及んでいます。

(2) 一般犯罪統計

国家統計庁の発表によれば、昨年1年間のサンクトペテルブルク市及びレニングラード州における犯罪認知総件数は56,480件（前年同期比100.0%）で、内訳は以下のとおりです（注：括弧内は前年同期比）。

殺人及び同未遂	203件（79.0%）
重度傷害	487件（96.1%）
強姦及び同未遂	74件（127.6%）

強盗	702件 (99.7%)
略奪	2,512件 (101.7%)
窃盗	22,628件 (96.4%)
詐欺	2,707件 (114.2%)
粗暴行為	87件 (84.5%)
薬物の違法流通	13,592件 (96.1%)

(3) 邦人被害事案

昨年1年間に当館が認知した邦人被害事案は、未遂も含めて合計29件です。今期10月から12月までに6件認知し、いずれも未遂を含むすり被害です。

特に、バッグを所持していたり、リュックを背負っていると狙われ易く、また、貴重品類をポーチにまとめて入れていると被害が大きくなるので注意が必要です。被害品の中でも iPhone は闇市で高値で取引されるとのことで狙われ易く、ご注意ください。

ア 10月中旬、午後2時30分頃、旅行者が、ネフスキー大通りのカフェで休憩中、外国人に話しかけられ注意を逸らされた隙に、脇に置いたバッグから iPhone、財布を盗まれ、その約10分後にはクレジットカードを使用される被害に遭いました。

イ 10月下旬、午後4時20分頃、在留邦人が、ワシリー島から混雑する7番バスに乗車し、車内で中央アジア系乗客の傍らにいたところ、ネフスキー大通りで降車後、引き手の反対側からバッグのファスナーが開いているのに気がつき、確認すると財布を盗まれていました。

ウ 12月中旬、午前10時30分頃、旅行者が、ネフスキー大通りの10番トラムに乗車中、身動きが取れない程の混み様に警戒していたものの、降車後、バッグ側面が鋭利な刃物で切り裂かれていることに気がつき、確認すると iPhone 等の入ったポーチを盗まれていました。

エ 12月下旬、在留邦人が、通勤中のバス車内で iPhone をポケットに入れていたところ盗られました。

オ 12月下旬、午後2時30分頃、在留邦人が、ネフスキー大通りのバスに乗車中、子供に気をとられている隙に背後のリュックのファスナーを開けられ中を物色されましたが、盗まれた物はありませんでした。

カ 12月下旬、旅行者が、ネフスキー大通りの歩道を歩行中、背後に歩調を合わせる気配を感じ道を外れて確認したところ、リュックのファスナーを開けられ、パスポート、現金やクレジットカード等の入ったポーチを盗まれていました。

(4) 邦人以外の被害事案 (別添「安全対策上の参考事件(平成27年10月~12月)」参照)

特異な事件としては、35番の警官が射殺された強盗殺人事件、46番の邦人も利用する複合商業施設「ガレリア」内での強盗事件、50番のカリーニンスキー区で発生中の犯人未検挙の連続強姦事件です。

3 テロ・爆発事件発生状況 (別添「安全対策上の参考事件(平成27年10月~12月)」参照)

10月8日、小口径砲弾を利用したIED (即席爆発装置) が爆発し66歳地元女性が重体となる爆発事件が発生しました (68番)。12月15日、無職男性2名が逮捕され、容疑を認めるとともに動機について社会に対する様々な不満から世間の耳目を集めたかったと供述しましたが、過激主義集団やアンダーな集団との関係は否定されています。

また、依然として、市内全域において、ショッピングセンター等の各種商業施設、公共交通機関、宿泊施設、病院・学校等の各種公共施設、集合住宅に対する爆発物に関する虚偽通報事件が発生している上、不審物に市民が敏感になっていることもあって通報が相次ぎ、長時間の治安機関による検索で市民の生活にも影響が及んでいますのでご注意ください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況 (別添「安全対策上の参考事件(平成27年10月~12月)」参照)

12月下旬、民事紛争中の会社経営者が何者かに拉致され、何らかの書面への署名を強要されましたが、脱出したところを助けられました。

5 日本企業の安全に関わる諸問題
特になし。